

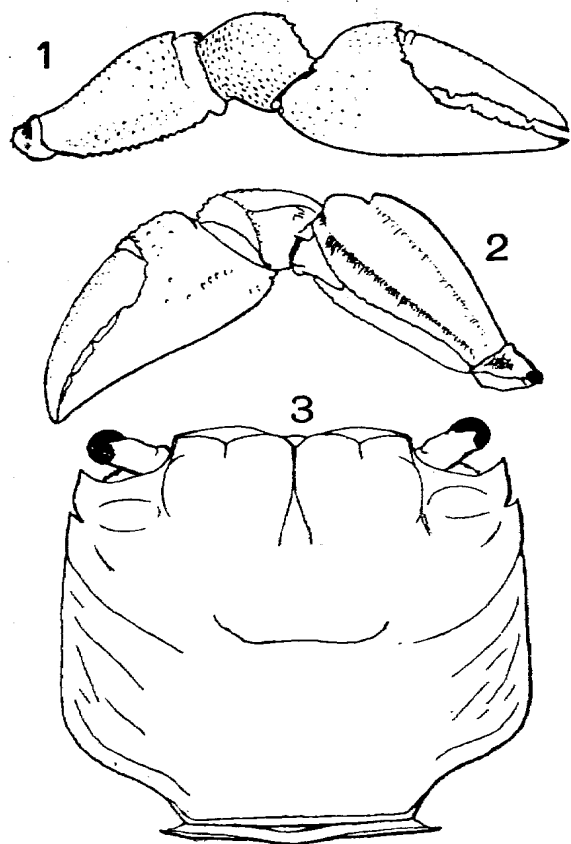
見るべし。以上の特徴によりて容易に *Sesarma* 屬の種たるを知るべし。

螯脚は左右殆ど同形にして、蹠節の上縁には明瞭なる二條の隆起線を見るべく、時としては、鉗の掌部の上縁にも同様なる二隆起線を明かに認め得べき事あり。鉗の内側は凹面を成す。頭胸部の背面の下方に幅廣き逆八文字の線條明かに認めらるゝ事あり(挿圖には之を描かず)。

本種の分布は、本邦内にては、琉球——小笠原——長崎——下田——相模灣——横濱——東京に及び、本邦外にては、廣東に近き Whampoa, 上海、香港に及び。DE HAAN の記す所によれば、本種は本邦の山の川に住むと

Sesarma debaani MILNE-EDWARDS. (一倍半)

(1) 右螯外面。 (2) 同内面。 (3) 頭胸部背面。



いふ。STIMPSON は、本種が、小犬の攻撃を能く防ぐ勇敢なる動物なる事を記せり。Grapsus (*Pachysoma*) quadratus DEHAAN は本種の異名なり。

因云。本篇起草中、安藤亮氏より動物學會宛にて郵送せられたる標本を檢查したるが、吉田氏とは全く別屬別種に屬するものなる事を確め得たり。委細は之を次號に譲る。(寺尾新)

● 鮎に寄生する「レルネオセラ」

大正四年五月廿五日、深川冬木町の養魚場より持來りし一尾の鮎に、一個の *Lernaeocera* 寄生するを見たり。「レルネオセラ」は、鮎の左側、腹鰭の基部に近き處に於て(同上基部上端より一種許り前上方に於て)、體の前半を鮎の鱗下に挿入し、體の後半及卵糸をば外界に露出し居たり。寄生蟲の侵入せる鱗(一枚)の下は Haemorrhagie を起し、赤變せり。鱗下に侵入せる寄生蟲の前部は、鱗を透して外方より多少其の所在を認め得たり。

寄生蟲の消化管は、稍綠色を帯びたる黒褐色を呈し、此の部殆ど間斷なく前後に蠕動する様外部よりよく見られたり(但し寄生蟲の鱗外に露はれたる部に於て)。此の蠕動は寄生蟲を鱗下より取出し、水道水中に入れたる後に於ても繼續せり。消化管の壁には綠色を帯びたる黒褐色の多くの粗大なる色素粒あり。是れ消化管の全體として前述の如き色を呈する所以なり。消化管内を滿せる液

中にも、類似の、色素粒状顆粒あり。消化管壁の蠕動につれて内部の顆粒及液状物も盛に前後に流動す。併しながら、寄生蟲全體は少しも動くことなし。

體は一般に硬直にして、取扱に際し屈曲する等のことなし。卵糸を除きたる體の前半部は殆ど透明なれど（中央を縦走する消化管を除き）、後半部は多少白色を呈す。卵糸は極めて薄く綠色を帯びたる灰白色なり。

頭部には、全く透明なる四個の角状突起あり。何れも形扁平にして、總て略ぼ同一平面内に在り。前方の二個（一對）は小にして、構通簡單、而して殆ど體の長軸に直角に左右に向て伸長す。後方の一對は、前方の者より形大きく、且つ各途中より二又す。即ち、各簡單なる基部と二又せる末部とよりなる。簡單なる基部は後外方に向ひ、二又せる末部の中、前方の枝は前外方に、後方の枝は殆ど體の長軸と並行して後方に向ふ。各角状突起は先端に至るに従ひ細くなれど、鋭く尖ることなし。

胸部は、大體、直圓筒状なり。前半の透明なる頸部は細く、後半に至りて少しく太くなれど、兩者の太さの差

東京にて得たる鮒の「レルネオセラ」
約五倍大。

は SELAGO 及 BAI-

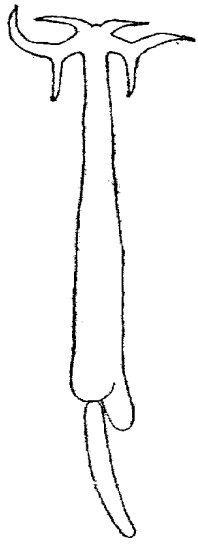
RD の畫ける *Lern-*

naecocera cyprin-

acea (LINN.) 程著

しからず。此の點、

及前方角状突起の



(雜 錄) ○鮒に寄生する「レルネオセラ」

方向は外國産の *L. cyprinacea* と多少相異す。（外國産のものにては角状突起の前方の一對は、何れも前外方に向へり、カラゴの畫けるものに於ては殊に甚しく前方に向へり。）

胸部は極めて少なり。恰も胸部の一附屬突起なるが如く、其の後端の側に附着突出せり。されど、胸部と胴部との境界は餘り明瞭にあらず。胸部・胴部共に、其の後端は圓く太く終れり。胸部の後端より胴部の後端迄の距離は○・八三六耗、胴部（基部）の幅は（胸部の後端と胴部とを左右互に相並ぶ如き位置に置いて測りたる）○・五八七耗あり。卵糸は *Lernaeocera esocina* のものよりは餘程細長し。棒状にして、やゝ弧形に曲り、先端少しく細くなれり。卵糸は、余の檢したるものは、寄生蟲が魚體に附着し居たる時より只一本なりしが、他の既知の者は皆二本を有するにより、一本は恐らくは途中にて失はれたるものなるべし。卵糸中の卵は稍楕圓形にして、各の長軸を卵糸の長軸に垂直の位置に置き、卵糸の中央に於ては五六列に並列す、而しその並び方は餘り正規的にはあらず。

測定表次の如し。

前方のもの	長さ	一〇六八耗
基部の幅	〇三五六耗	
二又せざる基部	長さ	〇四九八耗
幅	〇四四五耗	
後方のもの	長さ	一・二四六耗
二又せる部の長さ	〇九七九耗	
前方の者	〇九七九耗	
後方の者	〇九七九耗	

(雜 錄) ○ハウキムシの運動 ○北韓の惡獸「ヌクテ」

四〇

胸部の幅 頭部に接せる頸部…………… ○五三四耗
 卵系に接せる後端(一側に附着せる胴部をも含み) …… 一〇六八耗
 卵系 長さ…………… 三・二〇四耗
 幅…………… 〇・五三四耗
 體全體の長さ(卵系をも含み)…………… 一一・〇〇〇耗
 卵系中の卵 長徑…………… 〇・一四二耗
 短徑…………… 〇・〇八九耗

余の觀察したる標本は、大體に於て BAIRD の圖したる *L. cyprinacea* に類似し、SELAGO の圖したるもの(同一種)とはより多く相違せり。"The British parasitic copepoda, 1913" の著者 THOMAS SCOTT 及 ANDREW SCOTT は NORDMANN (1832) の書きたる *L. esocina* をも *L. cyprinacea* として其の圖版中 (Pl. I. Figg. 1, 2, 3) に入れたれど、こは恐らくは別種のものなるべし。(同書の Text に於ては、彼等はノルトマンの標本を HERMANN, 1783 の *L. esocina* 同一とするが如き不統一をなせり。同書百五十六頁参照。) 余の檢したるものは、固より、*L. esocina* とは大に異れり。(殊に其の卵系及角状突起の形態に於て然り。) 余の標本は、目下の知見にては、歐洲産の *Lernaeocera cyprinacea* (LINN.) と同一種なりと信ず。

寄生蟲は、五月廿五日、宿主より取離したる後、〇・八%の食鹽水中に入れ置きしに、翌廿六日の午後五時頃迄は、緩漫ながら(最初に比し)消化管の蠕動運動を認めしが、廿七日の午前十時には、その運動已に全く停止し、動物は死滅せり。

翌二十八日、冬木町の養魚場に至り、體長(尾鰭除外)五・二寸乃至七・五寸の鮒七十二尾を檢せしも、一も *Lernaeocera* を得る能はざりき。(因に本文中に記せる「レルネオセラ」を寄生せしめたる鮒も、是等の七十二尾の鮒と同一の場所に在りたるものなり。) (石井童美)

●幼ハウキムシの運動

三崎にて七月一日の朝の上曳に、芥に包まれたる異様なもの鏡下に蠢動するを見たり。よく見るに吻にて盛に運動するを發見せり。猶よく見るに、驚くべし、既に變態したる一匹の小さハウキムシならんとは。吻の如く活動するは尾端或は後端なり。恰もキボシムシの吻、斧足類の足を想起せしむ。忽ちにして膨れて丸くなり、忽にして尖り、又其尖りたる部一方に曲り、如何にも體の後端たる感起さしめず、此活動によりて幼ハウキムシは親の死管に潛り込むには非ざるか。口端には觸手の束あつて不動なり。血液は盛に血管内を流動す。池田氏の如きハウキムシ通には珍しからぬ現象ならんが、余には初めてのことに、取不敢誌上に報告することとせり。

(谷津直秀)

●北韓の惡獸「ヌクテ」

北朝鮮慶尙北道には、近來「ヌクテ」なる獸類出沒し、人畜に害を與ふる事次第に滋く、當局者も、其驅除には、少からざる苦心を拂ひつゝあるものゝ如し。右に關し、